

プログラミング・同演習ガイダンス

I. プログラミングの到達目標

- JBuilder を用いて Java 言語プログラミングの基本をマスターする。
- より高度なプログラミングについて、市販の参考書等で自学自習できるレベルに到達する。

II. 講義・実習の進め方

- ① 配布テキストに沿って各自が個々のペースに応じて学習を進めることができる「自学自習形式」を基本としています。テキストについては「Ⅲ. テキストについて」参照。
- ② 皆の指導には、本学部の先輩学生からなる補助員が当たります。目安として学生 10 名あたりに 1 名の補助員、そして 30 名あたりに全体を統括する 1 名の補助員が付きます。したがって、約 30 名の学生を「統括補助員 1 名＋担当補助員 3 名」が担当する事になります。
- ③ テキストには【基礎課題】と【応用課題】が用意されています。課題を完了したら担当の補助員のチェックを受けてください。チェックを受けなければ課題を提出した事になりません。なお、課題はあまりためずに、毎週きちんと提出するよう心がけて下さい。課題を数週間分ためて一度に提出する学生がいますが、そうすると課題チェックに時間がかかり、他の学生のチェックに支障が出ますので、その点注意して下さい。
- ④ 疑問な点がある場合は、補助員に質問できます。課題の答えそのものを教えることはしませんが、考え方を親切に教えてくれるはずです。
- ⑤ 担当補助員は座席配置によって割り当てます。そのため、演習中は指定した座席に座ってください。座席配置についてはプリントにまとめますので、10/12（木）朝～10/16（月）の午前中の間に教務課窓口で受け取って下さい。
- ⑥ 出欠は、担当補助員が行います。講義開始後 30 分以内に着席していない場合は（遅刻ではなく）欠席として扱います。また、演習途中で、無断で退出した場合も欠席となりますので注意して下さい。→ テキストの【基礎課題】および【応用課題】を全て提出した学生は、以降の実習は無条件で全て出席とします。出席と成績との関係については、「Ⅳ. 成績評価」参照。
- ⑦ 課題提出の進行状況や特に注意を要する点についてのアドバイス等は、毎週の授業の始めに講義形式で解説します。
- ⑧ 質問に対する回答や、テスト内容や結果の講評等を、適宜ホームページに掲載します。アドレスはシラバスに示したとおり「<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/HIKO/Prog>」です。
- ⑨ その他、プログラミングに関する質問や要望があれば、遠慮なく森田（C-514）まで申し出て下さい。

Ⅲ. テキストについて

- ① 第1章～第10章まであります。第7章までを必須の内容とし、第8章以降は選択とします。成績との関係については、下の「Ⅳ. 成績評価」を参照して下さい。
- ② ビジュアル環境を活用して、変数などの概念を視覚的に把握できるよう配慮しています。
- ③ 2001～2005 度のテキストについてもホームページに掲載しています。2001 年度は Delphi、そして 2002 年度については Delphi と C++Builder を並行して学習しました。そして本テキストはそれらの学習内容に準拠しているので、本テキストの学習後は、これらの言語についても（同じ要領で）学習することができます。

Ⅳ. 成績評価

- ① 単位取得の必須条件Ⅰ－出席率
出席率が7割未満の場合は、単位を取得することができません。具体的には、5回以上欠席すれば、単位取得の資格はなくなります。
- ② 単位取得の必須条件Ⅱ－基礎課題の提出
本科目の最終回の講義（'07年1/22）終了までに【基礎課題】を全て提出することが必須条件です（第7章まで）。1題でも欠けると単位の取得はできません。
- ③ 成績評価
2回のテスト（11/20、1/15を予定）の平均点と提出した応用課題数（1題1点）で評価します。

$\text{成績} = 2 \text{ 回のテストの平均点} + \text{提出した応用課題数}$
--

注意 成績が50点未満の場合は単位を取得することはできません。テストの得点が足りない場合は、応用課題の提出で挽回して下さい。

Ⅴ. その他

- 演習中、少し時間のかかる質問や、テキスト内容について詳しく説明して欲しい、という要望がある場合は、随時森田まで尋ねてください。演習中は、講義室内を巡回しています。
- 必要に応じて課題提出状況の中間チェックを行います。そして提出状況の思わしくない学生については情報ポータルの個人伝言等で注意します。改善がみられない場合は、単位取得に影響することがあるので、注意してください。
- プログラミングの力は、“どれだけ自分の頭で考えたか”で決まります。安易に指導員や補助員に答えを求めるのではなく、“まず自分で考える”という習慣を身につけてください。
- 「データ構造とアルゴリズム論・同演習」を履修する学生は、本科目の単位取得が必要です。